

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

第20週より、週報の様式が変更になりました

2017 (平成29) 年 第25週 (6月19日～6月25日)

今週のコメント

～ 手足口病 ～ 今週の定点あたり報告数は4.8となりました。特に、4ブロック(北河内8.6、南河内7.4、中河内5.4、大阪市北部5.3)で警報レベル開始基準値5を超えています

定点把握感染症

「手足口病 さらに増加」

第25週は前週並みの4,042例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ8.3、4.8、3.5、0.9、0.9であった。

感染性胃腸炎は前週比3%減の1,652例で、中河内12.4、南河内11.9、北河内11.1の順である。

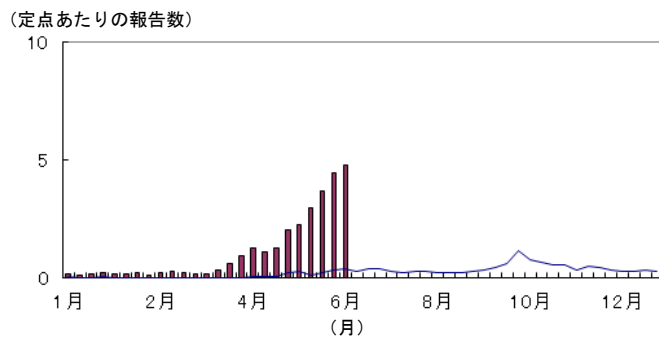
手足口病は8%増の962例で、北河内8.6、南河内7.4、中河内5.4、大阪市北部5.3であり、これら4ブロックで警報レベル開始基準値5を超えている。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は5%減の707例で、三島4.8、南河内4.3、中河内・泉州4.0と続く。

ヘルパンギーナは8%増の185例で、大阪市北部2.9、大阪市東部・豊能1.1である。

咽頭結膜熱は16%減の170例で、中河内1.7、大阪市南部1.1、泉州1.0であった。

手足口病



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

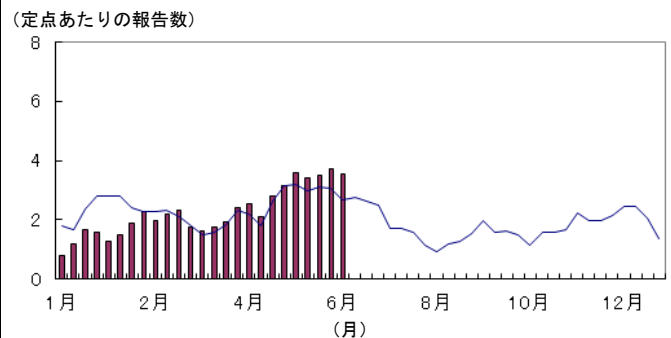


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017(平成29)年 第25週 6月19日-6月26日)

第25週 の順位	第24週 の順位	感染症	2017年 第25週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016年 第25週の 定点あたり 報告数	2017年 第25週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	8.3	3%減	6.2	1歳_18%
2	2	手足口病	4.8	8%増	0.4	1歳_35%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.5	5%減	2.7	5歳_18%
4	5	ヘルパンギーナ	0.9	8%増	3.5	1歳_34%
5	4	咽頭結膜熱	0.9	16%減	0.9	1歳_32%

第 25 週のコメント

～カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症～ 2014 年 9 月、5 類全数把握感染症となり、感染症発生動向調査では、全国で年間 1,500 例を超える報告があります

全数把握感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症は、カルバペネム系抗菌薬および広域β-ラクタム系抗菌薬に対して耐性を示す大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌科細菌による感染症の総称である。広域β-ラクタム系抗菌薬以外に、他の抗菌薬にも耐性であること、カルバペネム耐性遺伝子がプラスミドの伝達により複数の菌種に拡散していくことから、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。米国では、この 10 年間に、CRE の菌種全般の検出数は、4 倍に増加しており、国際的に発生動向が注視されている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

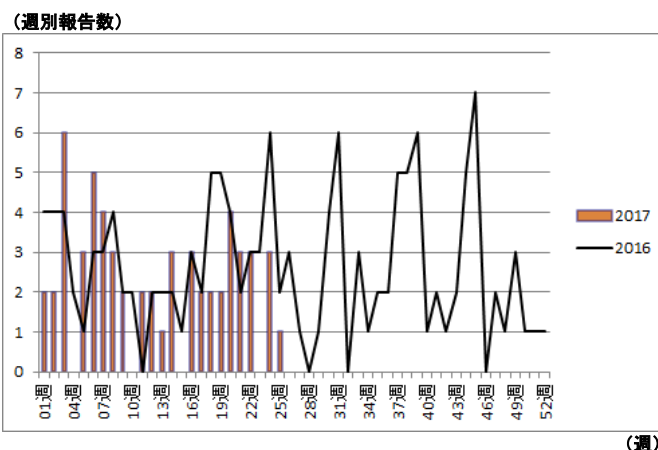


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 25 週 6 月 19 日—6 月 25 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1 類感染症	報告はありません
2 類感染症 (結核は除く)	報告はありません
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (堺市 1 名、府内累積報告数 42 名)
4 類感染症	報告はありません
5 類感染症 (麻疹、風しんは除く)	アメーバ赤痢 1 名 (堺市 1 名、府内累積報告数 60 名) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 58 名) 後天性免疫不全症候群 2 名 (大阪市 2 名、府内累積報告数 86 名) 侵襲性肺炎球菌感染症 2 名 (堺市 1 名、大阪市 1 名、府内累積報告数 150 名) 梅毒 7 名 (大阪市 7 名、府内累積報告数 315 名) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 名 (泉州 2 名、府内累積報告数 13 名)
結核(2017 年 4 月分)	結核 新登録患者数:141 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 50 名) (府内累積報告数 596 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 235 名)
麻疹、風しん	報告はありません

(2017 年 6 月 27 日 集計分)